

第三回 高二国語

総評

時間制限が厳しかったためか、特に古文・漢文の記述問題での白答も目立った。まずは文法事項・重要単語といった基本知識を確認し、少しでも解答欄を埋められるようにしよう。復習する際には、時間を気にせずに丁寧に解答を作ってみることが大切だ。古文・漢文は全訳や書き下しを自分で作り、内容を理解したうえで、再度問題に取り組みとよい。

問題別講評・採点基準

一 評論

一 熟語は、一字でも誤りを含んでいたら不可。
a 「糾弾」を「叫弾」、b 「墮落」を「惰落」と誤るものが見受けられた。つくりが似ている字を混同しないように、しっかりと復習しておこう。

二 誤答はさまざまな選択肢に分散した。傍線部周辺の文脈だけ見ているといずれももつともらしく見えるが、「象牙の塔」「アカデミズム」それぞれの語義をしっかりと押さえて検討しよう。

三 「採点基準」

〃 a 被抑圧者集団といえども b その内に存在する c 批判されるべき問題 を押さえて—— 10点
* a 部4点、b c 部各3点。

〈被抑圧者集団にどのように反省を促すかという問題〉(同じ命題でも、誰がどのように言うかによって意味が異なる問題)という方向でまとめている答案が目立った。解説で示したとおり、傍線部でいう「こうした問題」とは、問題文1行目の「命題」を指す。この前提を受けて、抑圧者集団・第三者集団の人々はどうのような態度をとるべきか、と問題提起を行っているという流れをとらえてほしい。

四 誤答が目立ったのは「両成敗」。これは第三者が「高みの見物」的立場から唱えるものとされており、空欄直後の「高みの見物」に含まれる。ここは、抑圧者側の問題ある態度として挙げられている「居直り」が最適。

五 「採点基準」

〃 a 抑圧者集団の側が被抑圧者集団の側の非を語る時には b 両者の所属の相違という客観的構造を踏まえ、c 友好の姿勢を明確にした上で、d 常に誤解の怖れを持ちつつ e 相手の言い分に耳を傾けて、f 表現の仕方にも気を配り、g 自分なりの理解に基づき問いを投げかけて h 対話を行う という点を押さえて—— 16点
* a b c d e f g h 部各2点。

しっかりと取り組んでいる答案が多かった。〈被抑圧者集団を批判するときは、友好の姿勢を明確にして、誤解されないようにする〉という枠組みに沿ってまとめている答案が多かったが、〈自分が相手を誤解しているかもしれないという懸念〉(相手の言い分にも

耳を傾ける)といった〈対話しようとする姿勢〉も押さえてほしい。制限字数が多いため、すべての要素を網羅することは難しかったかもしれないが、しっかりと復習しておこう。

六 誤答が目立ったのは才。誤答理由は解説で示したとおりだが、第三者集団の取るべき立場に限定して述べているように読める点からも、問題文全体の趣旨からはずれるといえる。問題文冒頭の「命題」について、抑圧者集団・第三者集団側の人々がどう向き合うべきか、という筆者の問題意識をとらえよう。

二 小説

一 a b c ともだいたい押さえられていたが、b でウ、c でアの誤答が見受けられた。b は誤りやすいところだが、「損じない」の語義に忠実なものを選ぶ。c 「つくねんど」の意味を知らなかった人はこの機会に覚えよう。

二 誤答は分散していたが、おおむねとらえられていた。人物像をとらえる設問では、自分の思い込みやイメージではなく、文中に根拠が示されていることから判断しよう。

三 「採点基準」

〃 a 釣り船の船頭として、新たな土地で生活を始める前に、b 横浜で今まで世話になった人々のために、

自分でできるだけのことはやり終えてからこの地を去りたいという思い”を押さえて—— 12点

* a b 部各6点。

「海」はこれからの船頭としての生活、「陸」は今までの横浜での生活、という大枠は押さえられている。ただ「陸」での生活について、「吉居の親戚にこき使われていた」「雑用ばかりの生活も離れば懐かしくなる」など否定的なとらえ方をしているものがあった。確かに六さんは吉居の親戚から重宝に使われていたが、「目につく限り……駆けまわった」「自分がいなくなっても当分は大丈夫」という記述からは、吉居の人々に対してできるだけのことをしているという、六さんの好意的な心情がうかがえる。

これが「こまごまとした情」である。なお、「情」について『新明解国語辞典』では、「人間関係が深まるにつれて、高まってくる（ことが期待される）暖かい感情」と説明している。

四 よくとらえられていた。「得手に帆をあげる」の意味を知らなくても、直後の「もう誰の……あやつつてな」から判断できただろう。

五 「採点基準」

” a 隆之介の死を最も悲しんでいるはずのふさ子が悲しみに浸る姿を見せずに気強くふるまう以上、b 自分も泣き顔を見せずに祖父を見送りたいという思い”を押さえて—— 11点

* a 部7点、b 部4点。

よくとらえられていた。「誰よりもふさ子が」の説

明では「誰よりも一番隆之介の死を悲しんでいるふさ子が」のように、言葉で補って説明できていた。「気丈を通ず」と傍線部の表現のままのものがあつたが、ここは自分の言葉で「気丈に振る舞う」などと言ひ換えたい。また杏子について「前を向いていこうと思つた」と説明したものがあつたが、「前を向く」は比喩的な表現なので、もう一步踏み込んで説明したい。

六 誤答は分散していたが、ややエが目立つた。「晴れがましきにも似た感覚」は隆之介の「潔い終わり方」を周囲が「幸せ」と納得し、敬意をもつて受け入れていることからくるものだから、「無責任ともいえる明るさ」とはいえない。表現の特徴についての問題を解く際は、選択肢を比較検討していく姿勢が、よりいっそう重要となる。言い過ぎのものや明確な根拠のないものを確実に除いていくこと。

古文

一 xyzとも誤答は分散していた。品詞の識別は古文読解の大事な基礎となる。ここで間違えてしまった人はもう一度しっかり復習しておこう。

二 aを「にこやかに」とかん違いしたものがあつた。「にほひ」の語義を押さえておこう。bはよくできていた。「思ひ出される」だと受身にとれてしまうので、尊敬だとはつきりわかるように表現を工夫しよう。c「飽かず」は〈満足しない〉〈飽きない〉の

意味で覚えている人が多いが、〈心残りだ〉という意味もあることをこの機会に覚えておこう。

三 Aは「すでに亡くなっている」「もう生きていない」という旨の解答があつた。「今は世にいない人だ」と思っているだろう」というのは中宮の言葉で、若君の言動にはない。Bは〈中宮が母ではないか〉という点は押さえられていた。Cの誤答は分散していた。この箇所は若君・中宮とも中語で「」が付いていないので、どの箇所を解答の根拠にすればよいのかが難しかったのだろう。このような箇所では、引用を表す「と」などに着目して、慎重に読み進めたい。

四 「採点基準」

” aあなたのお母さんは b私としかるべき縁のある人なので cあなたのことを dあなたのお母さんは eたいそう忘れがたく f恋しく思い申し上げているようなのを g私は見るのが気の毒なので”と訳して—— 13点

* a 部1点、b 部3点、c d e 部各1点、f g 部各3点。

傍線部の中にポイントとなる単語や文法事項が複数含まれており、人物関係がわかるように言葉を補って、それぞれを適切に訳出することが求められている。cは「若君の」御こと」だが、「母君のこと」と解釈したものがあつた。また、「恋ひ聞こゆめる」の「める」を訳していないものもあつた。助動詞・助詞も見落とさずに訳そう。

五 「採点基準」

〃 a 中宮の、b 同じ我が子なのに、c 皇子たちとは異なり宮中から離れた場所で暮らす d 若君をかわいそうに思う「気持ち」を押さえて——8点
* a d 部各1点、b c e 部各2点。

「誰の」が中宮であることはよく押さえられていた。「心情」については、「若君と離れたことを嘆く」「若君に対してすまないと思う」など、中宮自身に向けた気持ちととらえたものが目立った。和歌を詠むきっかけになったのは「宮々にうちかしま」っている若君の姿を見て「いとあはれ」と思ったことで、詠まれているのは「田鶴の子(若君)」なので、若君に向けた気持ちととらえたい。

六 誤答は分散していたが、アがやや目立った。「御簾をひき着て候ふ」とは、御簾を肩にかけるようにしてかしまっている姿の描写。中宮に呼ばれて、二の宮は屈託なく母の部屋に入るが、若君は自分の身分をわきまえて部屋には入らない。内容合致の問題では、現代文同様、選択肢の細部にキズがないか、一つ一つ丁寧に吟味していくことが大切である。解説と問題文全訳を参考に、誤りのポイントを確認しておこう。

四 漢文

一 読み・意味ともに解答するのは難しかったかもしれない。解説でしっかり復習しておこう。

二

一 よくできていたが、一レ点の使い方をよくわかっていないように思われるものも散見された。返り点のルールは漢文学習の基本。読む順番を確認し、どのように返って読めばよいのかをとらえよう。

二 「採点基準」

〃 a 宮廷内の作法礼法につきましては、b 慎み深く行わなければなりません」と訳して——5点
* a 部2点、b 部3点。

後半部を(慎まないことができない)〈慎まないわけはない〉など、「不可不」が二重否定であることはとらえているがニュアンスがずれる訳出になっているものが見受けられた。「不可」の禁止の意をとらえ、〈くしななければならない〉という強い肯定の意を明確にしよう。

三 「採点基準」

〃 a 来たらずんば b 且に c 通を斬せ bんとすと書き下して——5点
* a b 部各2点、c 部1点。

「不来」が(もしも来府しないならば)という仮定を示し、「且斬通」という後半部と切り分けられることが読めていないものが目立った。「且に……んとす」という再読文字は基本的なもので、しっかり復習しておこう。

四 「採点基準」

〃 a 鄧通は b 額を地に擦りつけ、c (額から)血

を流してまで b 謝罪したのだが、d 申屠嘉の怒りは解けなかった」と訳して——6点
* a c 部各1点、b d 部各2点。

〔鄧通が額から出血するほど謝罪している様子〕はおおむねとらえられていたが、「解」を(申屠嘉の怒りが解ける様子)ととらえられているものは少なかった。口語訳の問題なので、(謝罪しても許されない)という方向ではなく、「解」が意味するものを正確にとらえてほしい。

五 誤答はア・オが目立った。解説に示したように「上」「丞相」「通」という主語と動詞の関係を整理して丁寧に意味をとらえよう。

六 「採点基準」

〃 皇帝と申屠嘉が、宮廷の礼法を正すために示し合わせて、鄧通を反省させてから許した」ととらえたものが可、8点。

〃 申屠嘉が、皇帝から正式な使いが来たので、鄧通を許した」ととらえたものは4点。

〃 申屠嘉が鄧通を許した」とことのみを押さえたものは2点。

鄧通⇨丞相ととらえるものなど、人物関係を読み誤ってしまう答案も見受けられた。模範解答レベルの答案を作成するのは難しいだろうが、(誰が誰を責めて許したのか)という流れはしっかりとらえてほしい。